

琉球放送



島尻 一

(RBCビジョン制作技術部制作課 課長・プロデューサー)

みんぐるう民放史
題字 中川順

琉球放送では、年に一度全社をあげての企画募集が行われます。これまで取り組んだことのないチャレンジ精神にあふれた企画を一本番組化する、通称「チャレンジ企画」。2016年度に選ばれたのは、私の企画『琉球歴史ドラマ尚巴志(しょうはし)』。

14世紀から、明治政府によって沖縄が日本の琉球藩にされる19世紀まで、琉球は独立した一つの国『琉球王国』でした。その王国を誕生させた武将、尚巴志の歩みをドラマにするというのが、私の狙いででした。

歴史を振り返る手立てを失った沖縄の人々は、故郷の歴史に触れる機会も少なくなつたともいえるのです。戦争だけが理由とは言いませんが、沖縄の大きな損失だと考えます。



主役の金城大和さん

消された歴史 貴重な文明
太平洋戦争末期の1945年。

かくいう私自身もそうでした
が少ないので、志の名前を知つてはいても、何がどのような経緯を経て樹立されたのか？実は分かつている人が成した人物なのか？琉球王国間は非常に少なく、県民は尚巴志の名前を知つてはいても、何が少ないので、志の名前を知つてはいても、何が成した人物なのか？琉球王国がどのような経緯を経て樹立されたのか？実は分かつている人が少ないので、志の名前を知つてはいても、何が成した人物なのか？琉球王国間は非常に少なく、県民は尚巴

が、これは若年層に限らず、40代や50代まで多くの世代に共通する課題です。



沖縄の自然を生かし撮影

て、約130年前まで王国だった琉球、そして沖縄の歴史と文化を、県出身女優・国仲涼子さんのナレーションで伝えていきます。おかげさまで番組は、視聴率および視聴者の反応も良く、番組制作を続けるなかで、県民が琉球の歴史について知りたがっていることを実感し、今回のドラマ企画を思いつくに至ったのです。



県内ではおそらく初となるような
大掛かりな合戦の撮影

レが琉球かな…」「沖縄の人間がこんなこと言うかな…」衣装や言葉や行動…、今回は私たち沖縄県民が作る歴史ドラマなので、県民が違和感を感じるポイントに気をつけて、衣装や脚本・小道具作りに苦心しました。

ジオで雨も降らせたそうです！。今やそのノウハウも残つていません。

県内を駆け回り、時代にふさわしいかやぶきの屋敷や城に見える場所をロケ地としました。最後はカツラです。県内で行なわれている沖縄の歴史舞台や古典芸能などでカツラを使用しているものの、テレビでは生え際があまりに目立つので監督がNG。かといってテレビ用のカツラなど沖縄には存在しません。



琉球独特のカタカシラという 髪型の再現に苦労

出演者の方々を個別にお呼びして半カツラを開発。前髪の地毛をいかしつつ、後頭部に半カツラをつけるという方式に決まりました。そのカツラも安いパ

撮影で最も苦笑したのは合戦シーンです。兵士役のエキストラを80人揃えなければなりません。予算の関係で全員がボランティアです。

映画や全国放送の撮影では80人は規模が小さい方でしようが、衣装・小道具・受け入れ態勢を考えると県内では異例の規模。制作体制のノウハウもあまりない中、映画の助監督経験のあるスタッフさんにお手伝いを願いながら、2日間、早朝から夜遅くまで城跡で撮影を行いました。

放送時間に強力な裏番組



琉球の歴史に中国(明や清)の
キャラクターが必須

嬉しい視聴者の反応

「海のむこうでも苦労してたんだな」と韓国のスタッフと酒を酌み交わしたくなりました。

トニマの撮影後はBSで放送されていた古い韓流歴史ドラマを見ると、出演者がほとんどハチマキをしていることに気づきました。

監督が最も力を入れたシーンでもあり、力作といえるでしょう。エキストラの皆さんには感謝してもしきれません。

天気にも恵まれ、なんとか2週間のロケで全3話の撮影を終えることが出来ました。

ちのドラマが始まりました。テレビが2台ある居酒屋で両方のオンエアエッグをしていました私は、筒香選手がホームインするのを苦々しく見た覚えがあります。

つづく2話目の裏では、テレビ朝日のドラマ『相棒』の最終回2時間スペシャルの後半1時間が重なり、強敵と向き合うハメになってしまいました。

結果、視聴率は初回がなんと14%、3話平均も11%という結果でした。合格！とは言い切れませんが、及第点ではなかつたかと思います。

評判は上々でした。琉球の歴史については辛口な視聴者も多く、情報番組やバラエティで歴史をとりあげると、「そうではない」「私が知る歴史だと……だが、それはどこからの引用なのか」など、問合せが非常に多いのです。しかし今回は、想像していたよりも問合せが少なく、好印象であることも感じました。



琉球ではノロ(右・女性の司祭)が大切な存在

一ネット上で見かけられました。そして意外な反応は、インターネット上で見かけられました。嬉しいことに、ドラマ放送中に、ツイッターで県内の学生をはじめ、30、40代から好意的な反応がリアルタイムで見られたことです。更に、沖縄出身のドラマの主

役が、本土の特撮ヒーロー物に出演し、現在、人気アニメの声優も務めていることもあつたので、実際、ツイッター上でアンケートを取つてみましたが、回答の半数以上が沖縄県外からといふ結果でした。その声に応えることができないか検討中です。

事前に3分程度の予告編を作っていたおかげで、CM枠は即完売し、営業担当から嬉しい悲鳴も聞こえてきました。ドラマの内容に影響ないギリギリの尺でCMを増枠もし、全3話即座に完売。さらに、放送後に営業担当、冠スポンサーに御挨拶に伺うと「こんな企画を持つてきてくれてありがとうございます」と逆に御礼をされてしまつたと嬉しい報せもありました。



国王を任命される主役

視聴率も及第点、評判も上々。悪い結果ですが、正直に言ふと、今回のドラマ制作費は当初見込みより予算を大幅にオーバーしてしまいました。それで

しまくとうば（島言葉）
今回、あえて取り組まなかつたことがあります。取り組めなかつた、と言うのが正しいのですが、「言葉」です。
沖縄には、『しまくとうば』：沖縄独自の言葉。ウチナーグチとも言われます：があります。県民向けのドラマですから、



でしようか、本土のファンから「ドラマを見たい」という声が多くあがつたのです。実際に、ツイッター上でアンケートを取つてみましたが、回答の半数以上が沖縄県外からといふ結果でした。その声に応えることができないか検討中です。

事前に3分程度の予告編を作っていたおかげで、CM枠は即完売し、営業担当から嬉しい悲鳴も聞こえてきました。ドラマの内容に影響ないギリギリの尺でCMを増枠もし、全3話即座に完売。さらに、放送後に営業担当、冠スポンサーに御挨拶に伺うと「こんな企画を持つてきてくれてありがとうございます」と逆に御礼をされてしまつたと嬉しい報せもありました。

制作費増の直談判をし快諾いただけましたが、今後歴史ドラマを撮るとなつた場合、「地元の歴史を地元テレビ局がドラマ制作し、県民がわが島の歴史を再認識する」という私の目標を継続して「おこなうには、厳しい状況だと考えています。

Dの制作販売、もしくはインターネット配信などで収益を考えないといけないと思います。また、ツイッターでの反応もことも制作の足かせになり、セツトの費用が見込めないこともあります。また、撮影地が意外と少ないかもしれません。良かつた事を考えますと、クラウドファンディングで制作費を募るという方法もあるかもしません。

『しまくとうば』で演じるのが理想です。

しかし、今回は標準語で演技をしてもらいました。理由は二つ。県内外を問わず、子どもから大人までドラマを理解しやすいようにするため。そして、もう一つは、俳優陣が『しまくとうば』を話せないためです。

現在、沖縄芝居や古典芸能に関わっている関係者ですら、若手になると『しまくとうば』を話すことが出来ないという言葉の問題に直面しています。



14世紀の市場の再現にチャレンジ

『しまくとうば』は地域によっても異なります。那覇と石垣、宮古島など本島と離島でも違いますし、本島内でも北部と南部では大違えです。

最後に＝ローカル局の使命
今後の展開について

この企画の目標は、「意外と自らの郷土の歴史を知らない沖縄県民に、足元の歴史に触れてもらう」でもありました。

『しまくとうば』は地域によっても異なります。那覇と石垣、宮古島など本島と離島でも違いますし、本島内でも北部と南部では大違えです。

主人公の生まれ故郷でもある南城市では、撮影にご協力いたしました。ただくなど、放送後の展開も検討すべきでしょう。

地元の英雄を主役にした歴史



海を望む空撮

また、14世紀の言葉の厳密な再現も難しく、言語指導の費用や時間も捻出できないことから標準語を選択しました。『しまくとうば』で歴史ドラマを作るという大きな宿題が残りました。

それでも、主演の尚巴志について知らない人が多いのです。

市ホームページにも公開されました。実は、南城市民のなま制作を通して「地元の歴史を知りたい」という県民の思いを肌で感じるとともにプレッシャーを感じています。

「尚円（しょうえん）王」「護佐丸（ごさまる）」「聞得大君（きこえおおきみ）」など名前は知られていても、県民にどのような人物か十分伝わっていない琉球史の人物は、まだまだいます。

青臭いことを言えば、彼らを後世に伝えるのは地元ローカル局の使命とも考えています。継続性を考えれば先に挙げた費用の問題が避けて通れません。

ドラマをご覧になつた県内のある書店さんでは、放送中の3週間、番組の写真を使つたポップをつくり琉球歴史書籍コレクターが出来ていました。

今回、実現はしませんでしたが、ドラマでとりあげた城や史跡を扱つた書籍化、ドラマを市町村で上映したり、ドラマを県内の小中学校に授業で視聴していただくななど、放送後の展開も検討すべきでしょう。

【資料提供】
琉球放送

RBCビジョン